Panasonic®

保管用

住宅用鋼管引込小柱

スッキリポール スマートタイプ

施工説明書

■施工前にこの施工説明書を必ずお読みのうえ、正しく施工してください。
■配線工事には法令で定められた資格が必要です。
■取扱説明書およびスッキリボックス鍵は必ずお客様にお渡しください。

安全上のご注意 必ずお守りください

人への危害、財産の損害を防止するため、必ずお守りいただくことを説明しています。

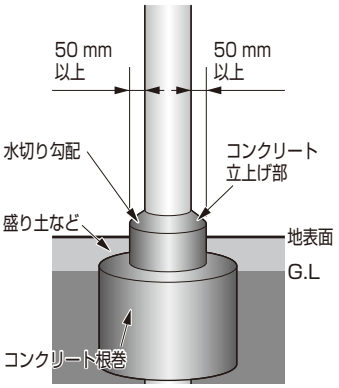
⚠警告

禁止

- **実用径間および許容荷重を超える引き込みはしない**
- **電線やケーブル支持線を強く引っ張らない**
- **商品の仕様にないものは取り付けない**
  また、植栽や他の構造物の支えにしない
  ・看板・ハンモック・物干し竿など
  ポールに想定外の負荷がかかり、曲がりや転倒の原因となります。
- **活線工事はしない**
  電気事故の原因となります。
- **ポールやボックスに穴をあけるなどの追加工や改造はしない**
  強度低下による曲がりや転倒のおそれや、追加工部からの腐食による寿命低下の原因となります。

必ず守る

- **施工は、施工説明書通りに正確に行う**
  適切な施工がされていないと、寿命の著しい低下や雨水浸入による電気事故の原因となります。
- **「電気設備の技術基準」および「内線規程」に基づいて施工する**
  適切な施工がされていないと、電力の供給が受けられない原因となります。
- **高所作業時は、ヘルメットの着帽など安全性を確保した上で、ポールに強い力が加わらないように作業を行う**
  ポールに想定外の負荷がかかり、曲がりや転倒の原因となります。
- **各部の固定は確実に行う**
  施工時および使用時に部品落下の原因となります。
- **ポール・ボックスおよび電話保安器には接地工事を行う**
  電気事故の原因となります。
- **仮建柱からコンクリート根巻きが乾くまでポールを充分固定し、作業を行う**
  ポール転倒の原因となります。
- **風の強い地域や氷雪の多い地域に建柱する場合は、施工説明書内の注意事項「風圧荷重のご確認」を参照して、径間距離を決める**
  ポールに想定外の負荷がかかり、曲がりや転倒の原因となります。
- **ポール表面に傷や素地が見える剥離のないことを確認し、異常があれば確実に補修する（取扱説明書「補修方法」を参照）**
- **商品を建て、コンクリートで固定する際は、「根巻きサイズ」を確認し、更に植栽などの土がポールに被らないようにGLよりコンクリートを盛り上げ、堅固に固定する（右図参照）**



- **動物などの排泄物が付着することが考えられる場合は地際部に補修塗料・防食テープなどで予防処置する**
  腐食が促進されポール倒壊の原因となります。
- **BS（CS）アンテナ取付金具は、上部柱の最下部に取り付ける。また、アンテナは直径 60 cm 以下のものを使用する（BS・CS アンテナ仕様のみ）**
  強度不足によるポール倒壊や揺れによる受信不能の原因となります。
- **建柱時は、ポール下面の水はけを良くする**
  ポール内に雨水がたまり、腐食の原因となります。

⚠注意

禁止

- **当社部品以外での取り付けは行わない**
  取付強度不足など不具合が発生する原因となります。
- **ボックスの上に乗るなど過剰な負荷をかけない**
- **物を投げ付けない**
  変形、傷による寿命の低下や雨水浸入による電気事故の原因となります。
- **ボックスの取り付けや配線作業時、扉にもたれたり、体を支えたりしない**
  金具が変形したり、扉が外れて落下し、けがの原因となります。
- **運搬中は振り回さない**
  人や物などに当たりけがの原因となります。
- **ポールは不安定な立て掛けをしない**
  倒れて、けがの原因となります。
- **結束バンドを持たない**
  落下して、けがの原因となります。
- **ボックス固定後、ボックスの向きを変えるなど過剰な負荷をかけない**
  金具が変形する原因となります。

必ず守る

- **配線作業中は扉を仮止めする**
  手を挟む原因となります。
- **上・下部柱の組立時は、手袋などの防護具を付けポールに枕木を敷く**
  手足を挟む原因となります。
- **荷崩れしないように保管する**
  荷崩れしてけがの原因となります。
- **手袋などの防護具をして作業する**
  ポール端面、切欠穴部などで手指を切る原因となります。

施工の基本事項

●ポールは内線規程に基づいて施工してください。

●ポールは電線管ではありませんので、ポール内の配線は必ずケーブルをご使用ください。

●ポールは電気設備技術基準の解釈第57条による引込小柱ですので他の用途（例えば道路灯・門柱・電柱など）には使用しないでください。

●引込線が道路を横断する場合は架空引込線の高さが地上5 m以上、道路を横断しない場合は4 m以上になるようにしてください。工事上やむを得ない場合において交通に支障がない場合で、道路横断する場合は地上3 m以上、道路を横断しない場合は2.5 m以上になるようにしてください。

※電力会社にご確認ください。

●ポールへの引込線は内線規程に基づき、道路・建物など他物から確実に離隔してください。

●配電柱との径間は「スッキリポールへの引込線の選定と実用径間」表（3〜4ページ）の実用径間内としてください。

●実用径間内で引き込みしてもポールにたわみが発生します。「スッキリポールへの引込線の選定と実用径間」表のたわみ量の目安を参考に、曲がり・傾きを調整してください。

●スッキリボックス内に雨が入らないように、スッキリボックスとポールの間の引込口パッキンは確実に納まるように施工してください。

●建柱時、ポール内部に根巻き用コンクリートが入らないように保護用埋込配管引き出し穴を全箇所、テープなどでしっかり養生してください。

●仮建柱時、土を埋め戻す際は、雨水が長期にわたり残存しないようにポール下面の水はけを良くしてください。

●傷は腐食の原因になりますので、補修塗料などで防錆処理をしてください。

●ポールの実用径間（配電柱〜引込小柱の距離）は、DV架空引込電線の弛度（たるみ）3 %を基準として計算した値です。弛度が小さくなると、張力が増加し、径間距離も極端に短くなりますので弛度3 %以上で施工してください。

●実用径間内でも、引込支持線（ケーブルちょう架用線など）を強く引っ張るとポールが曲がるおそれがあります。

ポール選定時に許容荷重値をご参照ください。

●架空引込線の引留フックを支線引留金具と共用しないでください。

●施工の際はGL表示より上の包装紙をつけたまま工事をしてください。

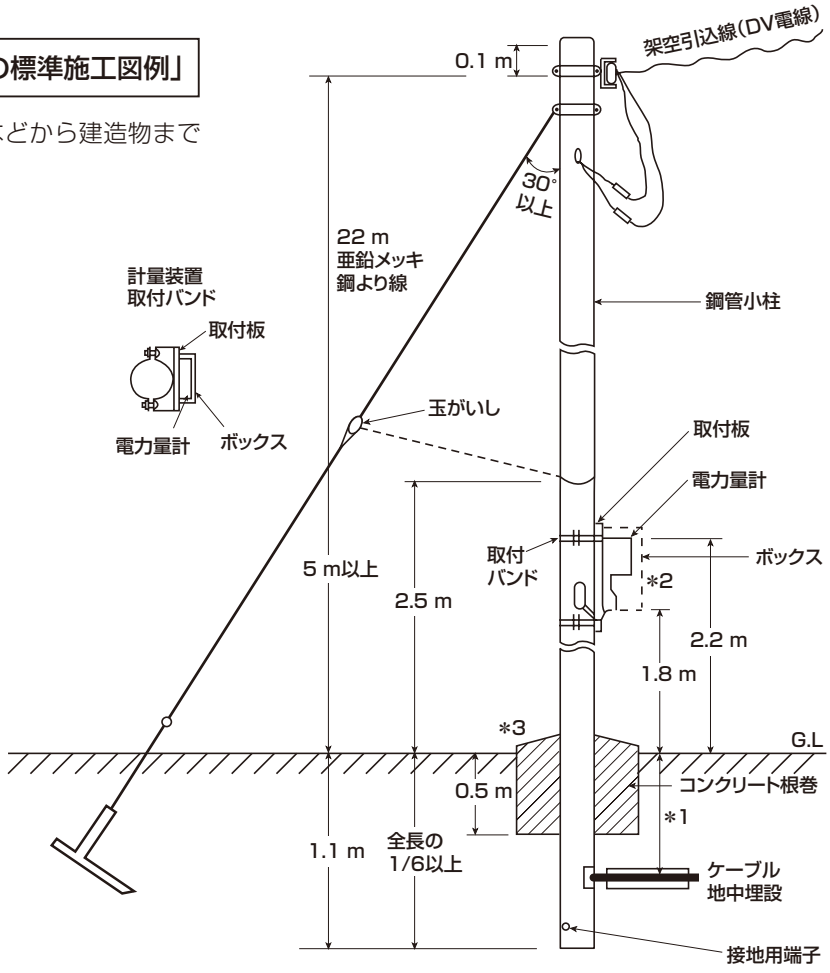
●テレビおよび電話などの弱電線は強電線と直接触れないように施工してください。

●ポールおよびスッキリボックスは、落下など強い衝撃を加えると表面に傷が入り錆の原因となりますので、丁寧に扱ってください。

●支線を敷設する場合JIS G3537に適合する亜鉛メッキ鋼より線22 mm^{2}をご使用ください。（推奨）

内線規程 2205 節　資料 2-2-4「引込小柱などの標準施工図例」

鋼管柱で管内にケーブルを引入れて施設し、引込小柱などから建造物までの部分を地中に埋設して施設する場合。



〔備考1〕＊1のケーブルの埋設深さなど施設方法については、内線規程2400節2400-1（地中電線路の施設方式）を参照のこと。
〔備考2〕＊2は、ボックスを取り付ける場合の図例を示す。
〔備考3〕＊3のコンクリート根巻は水がたまらないように地際の部分を多少盛り上げることが望ましい。

スッキリポールへの引込線の選定と実用径間

主幹容量	用途	品番	ポール全長(m)	14 mm²	22 mm²	38 mm²	情報線 TEL×1	情報線 TEL×2	情報線 CATV×1	情報線 光×1	実用径間(m) 甲	実用径間(m) 乙	実用径間(m) 丙	許容荷重(N)	根巻きサイズ径×深さ(mm)	ポールのたわみ量の目安(mm) 径間10の場合(実用径間が10満たない場合、実用径間時の値としています)
14 mm²・22 mm²	電灯 電話	XDNB0270S	7.0	●			●				14	13	27	1372	Φ550×600	45
				●				●			11	12	22			47
					●		●				12	11	21			67
					●			●			10	10	18			70
	電灯 電話 情報(CATV)	XDNC0274S	7.4	●			●		●		9	8	18	1303	Φ450×550	66
				●				●	●		8	8	15			70
				●			●			●	9	9	18			62
				●				●		●	8	8	16			65
					●		●		●		8	8	15			93
					●			●	●		7	7	13			97
					●		●			●	8	8	15			89
					●			●		●	7	7	14			92
	電灯 電話 情報 CATV	XDND0278S	7.8	●			●		●	●	6	6	13	1205	Φ400×500	89
				●				●	●	●	6	6	12			93
					●		●		●	●	6	6	11			121
					●			●	●	●	5	5	10			125
	電灯 電話 TV	XDNH0270S	7.0	●			●				9	12	25	1372	Φ550×600	45
				●				●			7	11	21			47
					●		●				7	11	20			67
					●			●			6	10	17			70
38 mm²	電灯 電話	XDNB0370S	7.0			●	●				12	11	21	2019	Φ850×1000	50
						●		●			9	10	17			51
	電灯 電話 情報(CATV)	XDNC0374S	7.4			●	●		●		7	6	13	1882	Φ600×1050	65
						●		●	●		5	5	10			67
						●	●			●	7	6	14			63
						●		●		●	5	5	10			65
	電灯 電話 情報 CATV	XDND0378S	7.8			●	●		●	●	7	6	13	1764	Φ500×650	81
						●		●	●	●	6	6	11			83
	電灯 電話 TV	XDNH0370S	7.0			●	●				10	11	20	2019	Φ850×1000	50
						●		●			8	9	16			51

〔電源コンセント対応スッキリポールスマートタイプ〕

主幹容量	用途	品番	ポール全長(m)	14 mm²	22 mm²	38 mm²	情報線 TEL×1	情報線 TEL×2	情報線 CATV×1	情報線 光×1	実用径間(m) 甲	実用径間(m) 乙	実用径間(m) 丙	許容荷重(N)	根巻きサイズ 径×深さ(mm)	ポールのたわみ量の目安(mm) 径間10の場合(実用径間が10満たない場合、実用径間時の値としています)
14 mm²・22 mm²	電灯 電話 情報(CATV) コンセント	XDNC6274S	7.4	●			●		●		9	8	18	1303	Φ450×550	66
				●				●	●		8	8	15			70
				●			●			●	9	9	18			62
				●				●		●	8	8	16			65
					●		●		●		8	8	15			93
					●			●	●		7	7	13			97
					●		●			●	8	8	15			89
					●			●		●	7	7	14			92
	電灯 電話 情報 CATV コンセント	XDND6278S	7.8	●			●		●	●	6	6	13	1205	Φ400×500	89
				●				●	●	●	6	6	12			93
					●		●		●	●	6	6	11			121
					●			●	●	●	5	5	10			125
38 mm²	電灯 電話 情報(CATV) コンセント	XDNC6374S	7.4			●	●		●		7	6	13	1882	Φ600×1050	65
						●		●	●		5	5	10			67
						●	●			●	7	6	14			63
						●		●		●	5	5	10			65
	電灯 電話 情報 CATV コンセント	XDND6378S	7.8			●	●		●	●	7	6	13	1764	Φ500×650	81
						●		●	●	●	6	6	11			83

・許容荷重

許容荷重はポールの先端に加わる張力の最大値です。許容荷重は材料の許容応力と先端のたわみ量から算出しています。

・実用径間

実用径間は配電柱からスッキリポールまでの距離(最長径間距離)を表わしています。表中のケーブルに丙種風圧荷重が加わった時、ポールに加わる張力が許容荷重以下になるように実用径間を設定しています。このときの電線の弛度(電線のたるみ)は実用径間の3%です。

・コンクリート根巻基礎

カタログ記載のコンクリート根巻基礎サイズは、電気設備技術基準の解釈第58条により普通土質〔B〕固まっている土または砂、多数の砂利、石塊まじりの土などで軟らかい土の部類に属するものの土質係数を使って算出しています。

各風圧荷重について(電気設備の技術基準の解釈第57条　解説より)

甲種風圧荷重　高温季(夏から秋にかけての季節)において風速40 m／sの風があるものと仮定した場合に生ずる荷重

乙種風圧荷重　氷雪の多い地方における低温季(冬から春にかけて一般的に強風はない季節)において架渉線に氷雪が附着した状態で甲種風圧荷重の1／2の風圧を受けるものと仮定した場合に生ずる荷重

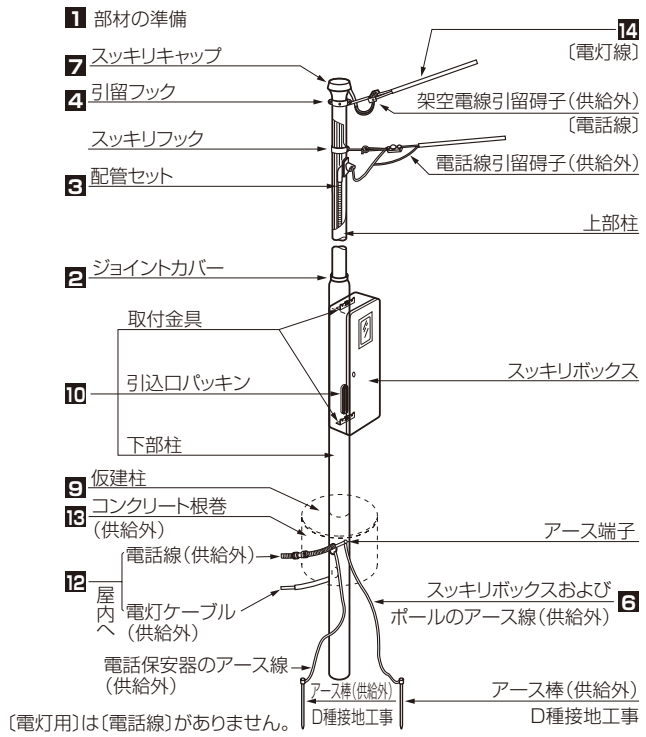
丙種風圧荷重　氷雪の多くない地方における低温や人家が多く連なっている場所(一般的に風速は減少する)などにおいて、甲種の場合の1／2の風圧を受けるものと仮定した場合に生ずる荷重

(中略)

氷雪の多い地方というのは、その地方の地方気象台の記録により判断すべきであるが、大体の目安としては、従来から北海道、秋田県、山形県、岩手県、宮城県、福島県、新潟県、長野県、富山県、石川県、福井県、岐阜県北部、滋賀県北部兵庫県北部、鳥取県、島根県およびその他土地が高く寒気が厳しい地方並びに栃木県、群馬県、茨城県、東京都、神奈川県等電線に氷雪のつきやすい地方を対象に考えている。

スッキリポールの構成と施工順位

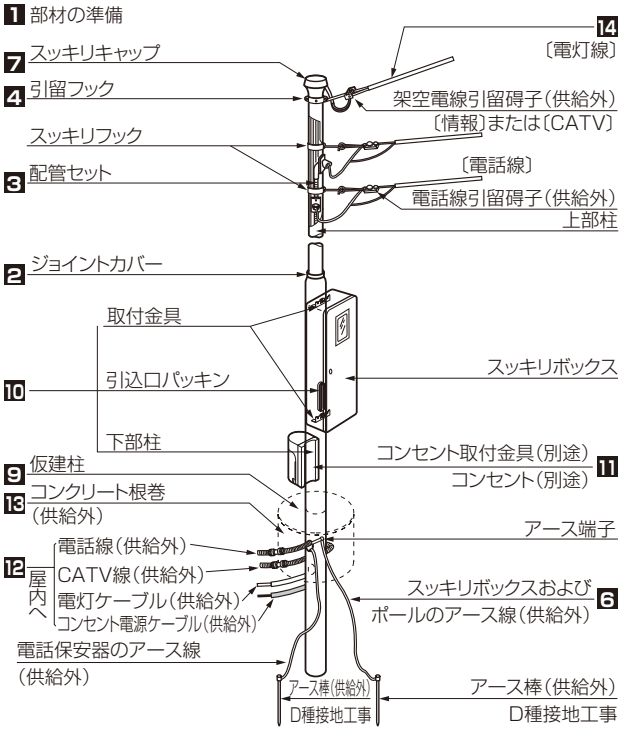
〔電灯・電話用〕



〔電灯用〕は〔電話線〕がありません。

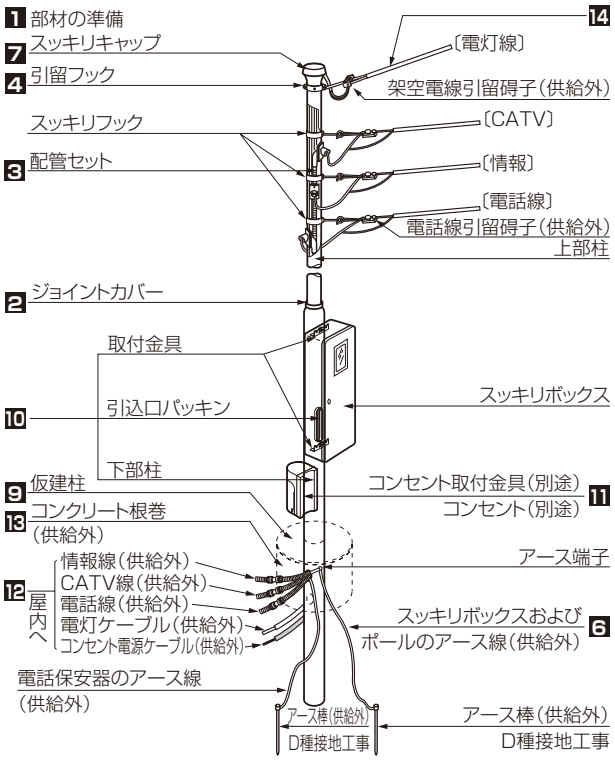
【電灯・電話・温水器】はスッキリボックスが 1513 型になります
【電灯・電話・太陽光・温水器】はスッキリボックスが 1523 型になります

〔電灯・電話・情報（CATV）用〕
〔電灯・電話・情報（ＣＡＴＶ）・コンセント用〕



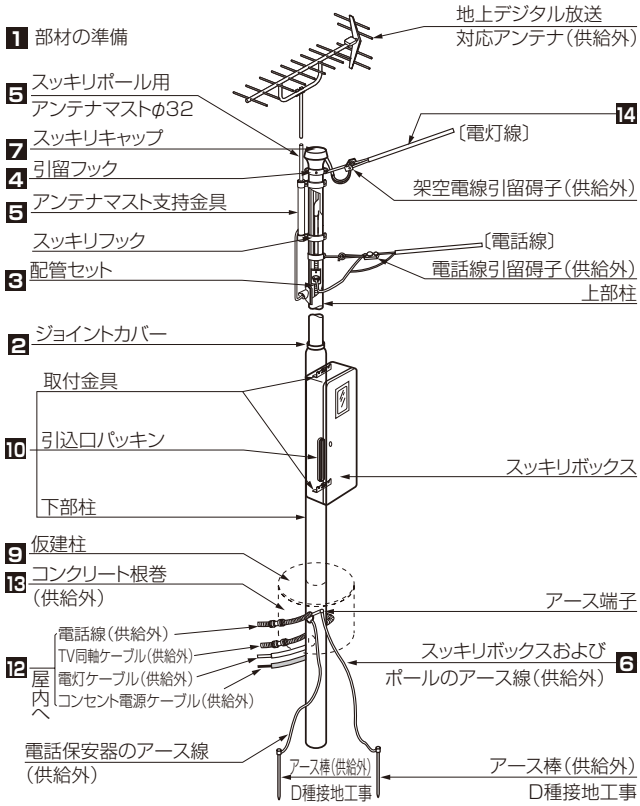
【電灯・電話・情報（CATV）・温水器】はスッキリボックスが 1513 型になります
【電灯・電話・情報（CATV）・太陽光・温水器】はスッキリボックスが 1523 型になります
【電灯・電話・情報（ＣＡＴＶ）・コンセント用】のみコンセントが取り付きます

〔電灯・電話・情報・CATV 用〕
〔電灯・電話・情報（ＣＡＴＶ）・コンセント用〕



【電灯・電話・情報・CATV・温水器】はスッキリボックスが 1513 型になります
【電灯・電話・情報・CATV・太陽光・温水器】はスッキリボックスが 1523 型になります
【電灯・電話・情報（ＣＡＴＶ）・コンセント用】のみコンセントが取り付きます

〔電灯・電話・TV アンテナ用〕



※数字は施工手順を示す。

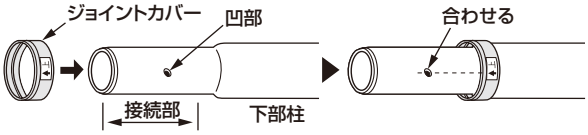
施工手順

1 部材の準備

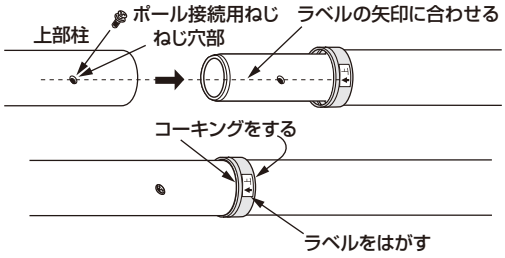
構成部材一覧をご覧の上、員数を確認してください。
ポール表面に傷や素地が見える剥離のないことを確認してください。異常のある場合は取扱説明書の補修方法に従って確実に補修してください。

2 ポールの接続

1. ジョイントカバーを下部柱の接続部に差し込み、ラベルの矢印位置を接続部凹部に合わせる。



2. 上部柱のねじ穴部を下部柱の凹部とラベルの矢印に合わせて差し込んでください。
差し込み後はポール接続用ねじでしっかり固定してください。



3. 固定後､ラベルをはがし､ジョイントカバー上面と上部柱のすき間一周を雨水浸入防止のため、屋外用コーキング材にてコーキングしてください

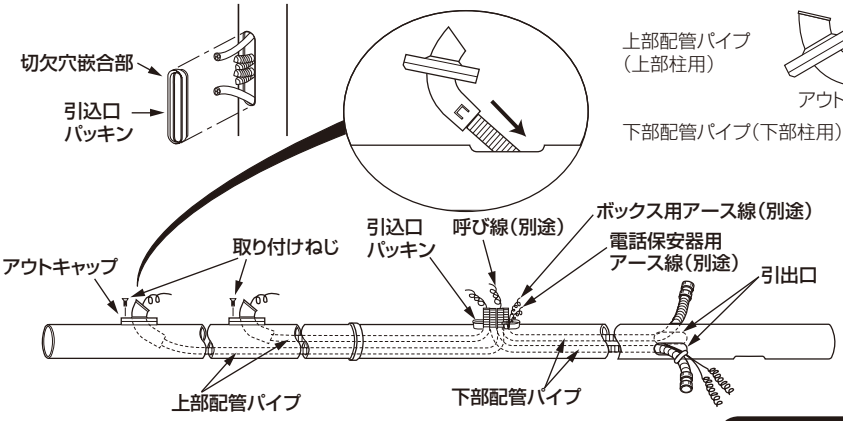
ご注意

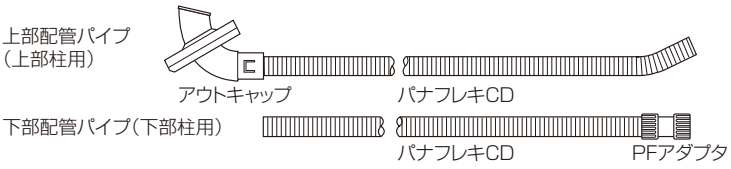
・ねじが浮いている時は、凹部と合っていません。
位置合わせをやり直してください。
・ポール接続用ねじの固定はしっかり行なってください。

ポールは、枕木を敷いて寝かせて置いてください。

3 配管セットのポールへの取り付け

引込口パッキンの切欠穴嵌合部をポールの長穴内面に沿わせるように取り付けてください。





※管端に PF アダプタが付いている上部配管用パイプ（上部柱用）は、TV または BS アンテナ用です。
※上部配管用パイプ（上部柱用）の呼び 16 は電話用、呼び 22 は情報または CATV 用です。

お願い

配管セットが複数ある場合は、通線する配管を間違えないように弱電線の種類がわかるようにしておいてください。
間違うと、施工できないおそれがあります。

ご注意

各配管には呼び線を通しておいてください。テーピングなどで異物が入らないように養生してください。

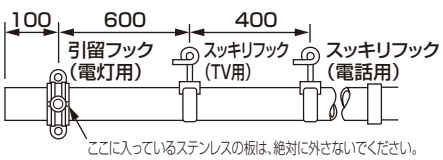
4 引留フック、スッキリフックの上部柱への取り付け

引留フックは電灯線の引込方向、スッキリフックは電話線、CATV 線の引込方向に向けて固定してください。

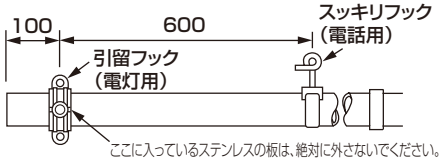
[単位：mm]

〔電灯･電話用〕

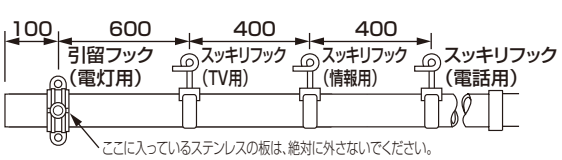
〔電灯･電話･情報(CATV)用〕〔電灯･電話･情報(CATV)･コンセント用〕



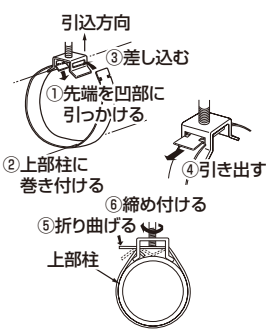
〔電灯･電話･TVアンテナ用〕



〔電灯･電話･情報･CATV用〕〔電灯･電話･情報･CATV･コンセント用〕



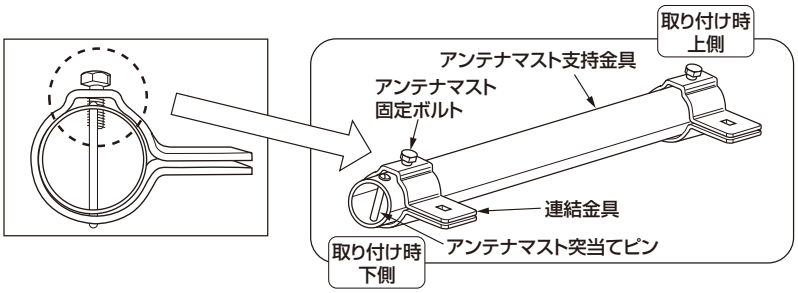
スッキリフックの取り付け



5 アンテナマストおよびアンテナマスト支持金具の取り付け

1. 施工前確認

出荷時は右下図のように組み立てられた状態です。施工前にアンテナマスト固定ボルトが連結金具の内側に飛び出していることを確認してください。



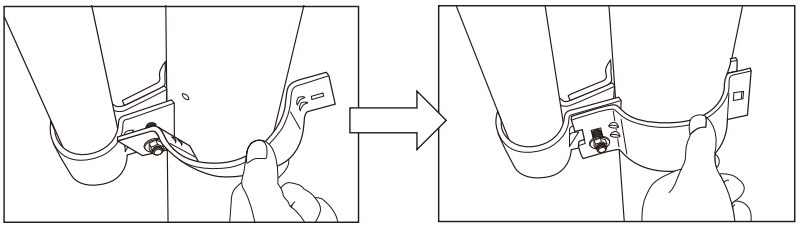
ご注意

アンテナマスト固定ボルトはアンテナマスト支持金具と連結金具のズレ、抜けを防止する役目があります。

アンテナマスト支持金具の取り付けが完了するまで緩めないでください。

2. スッキリポール本体への取り付け

①連結金具と固定バンドを連結ボルト・平座金・連結ナットでゆるめに仮接続し、下図の手順でスッキリポール本体に仮固定してください。

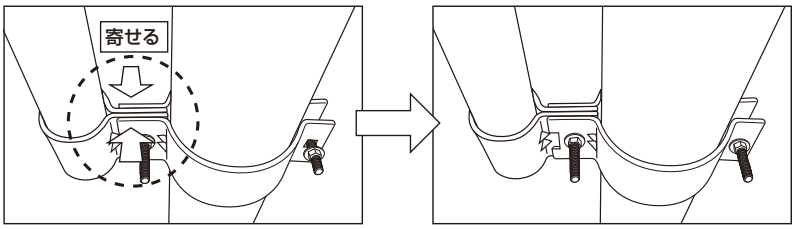


仮固定1　　仮固定2

ご注意

固定バンドには方向性があります。切り欠きがある方を連結金具側にして取り付けてください。

②アンテナマスト支持金具の取付位置を決定し、アンテナマスト支持金具を固定してください。



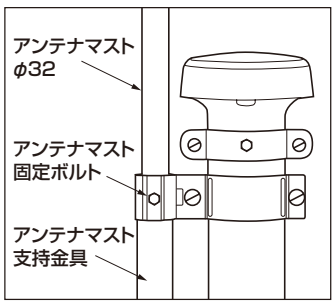
締め付け手順1　　締め付け手順2

ご注意

アンテナマスト支持金具を固定するときは、必ず20.4 N·m以上の締め付けトルクで連結ボルト・ナットから締め付けてください。また、締付けボルト・ナットも同様に20.4 N·m以上で締め付けてください。

3. アンテナマスト支持金具へのアンテナマスト取り付け

①アンテナマスト支持金具が完全に固定されていることを確認してください。
②アンテナマスト固定ボルトをゆるめて、アンテナマストをアンテナマスト突当てピンに当たるまで差し込んでください。
③指向性を調整し、アンテナマスト固定ボルトを 10.2 N·m 以上で締め付けてください。



⚠ 警告

アンテナマスト取り付け時、ポールに傷が発生した場合は、補修塗料などで補修する
傷部から腐食がすすむ原因となります。

⚠ 注意

アンテナマストおよびアンテナマスト支持金具にBS（CS）アンテナを取り付けない
風圧荷重など強度不足によるポールの倒壊や、揺れによる受信不能の原因となります。

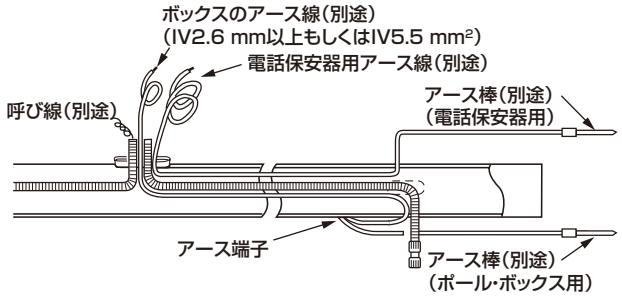
6 アース線の下部柱への取り付け

1. ボックスおよびアース棒からのアース線をアース端子にねじ止めします。
2. 電話保安器用のアース線を通線します。

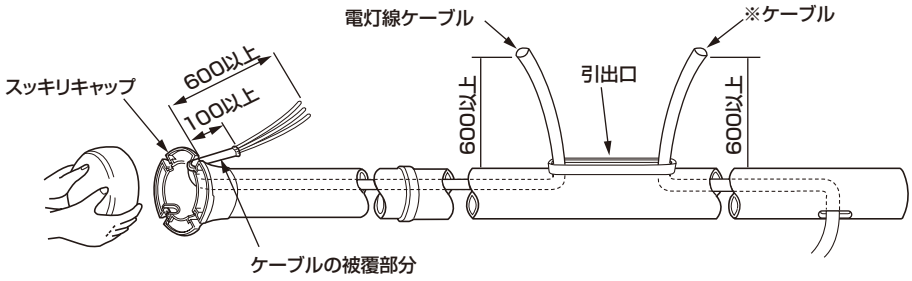
ご注意

ボックスのアース線と電話保安器用アース線は別々に接地してください。

〔電灯･電話用〕(施工例)



7 通線およびスッキリキャップのポールへの取り付け



[単位：mm]

※印の屋内分電盤への引込みケーブルはポール仮建柱時に呼び線を通して行ってください。

※電灯線ケーブルはスッキリボックス施工時、強・弱電線を分けやすいように、引出口の両端にくるようにしてください。

スッキリキャップの組立て方法

①ケーブルの被覆の取り除きは、スッキリキャップの外100 mm 程度残してください。

②ケーブル被覆の取り除き部分からケーブル内への水の浸入を防止するためにテーピングなどの処理をしてください。

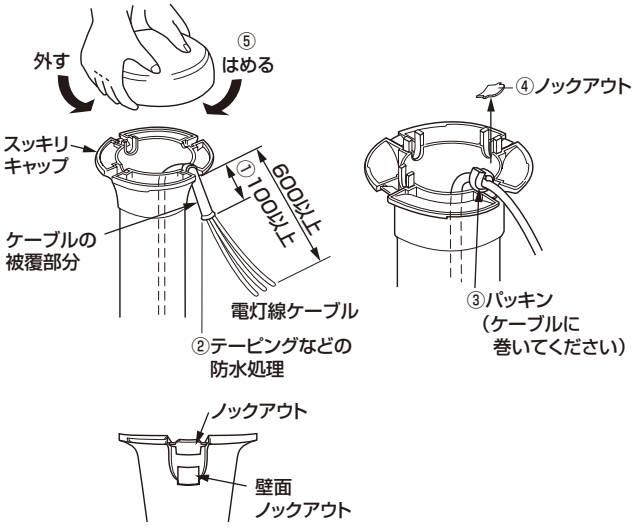
③ケーブルからポール内への水の浸入も、付属のパッキンまたはテープなどで防止してください。

④配線するケーブルサイズに適合する箇所を確認し、電線を通す穴のみノックアウトをニッパを用いて外してください。

⑤キャップは、風で飛ばないようにしっかり回転させて取り付けてください。

・38 mm^2・60 mm^{2}用は、ノックアウトと同様に壁面ノックアウトも外し配線してください。

・電線を通す穴以外のノックアウトを外した場合、パテなどで必ず穴をふさいでください。



⚠ 警告

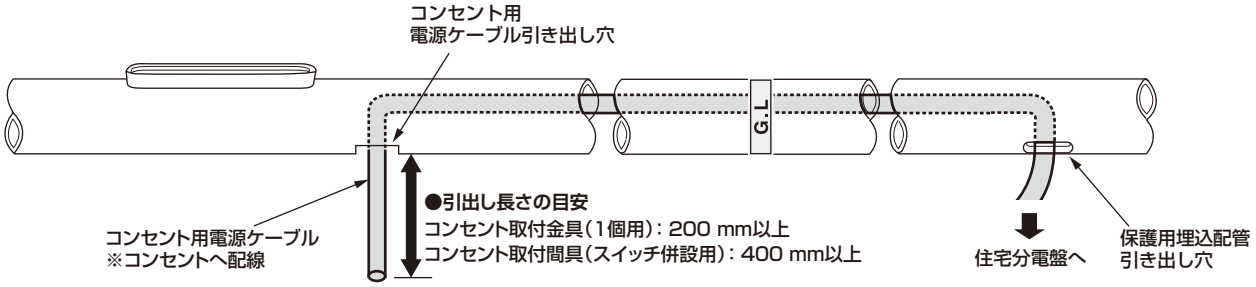
通線しないノックアウトは外さない
外すと、小鳥などがポール内側に侵入し、電気事故につながる原因となります。

⚠ 注意

電線を通す穴以外のノックアウトをパテなどで必ずふさぐ
小鳥などがポール内側に侵入し、電気事故につながる原因となります。

8 コンセント用電源ケーブルの配線

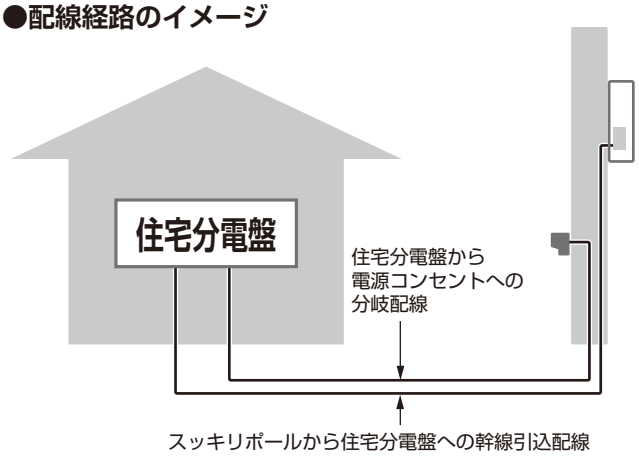
●建柱時に電源コンセントを取り付ける場合



ＥＶ／ＰＨＥＶ充電に使用する場合

ケーブルサイズは、将来の 200 V　30 A 充電対応を考慮して、φ 2.6 mmまたは5.5 mm^2の使用をおすすめします。

●配線経路のイメージ

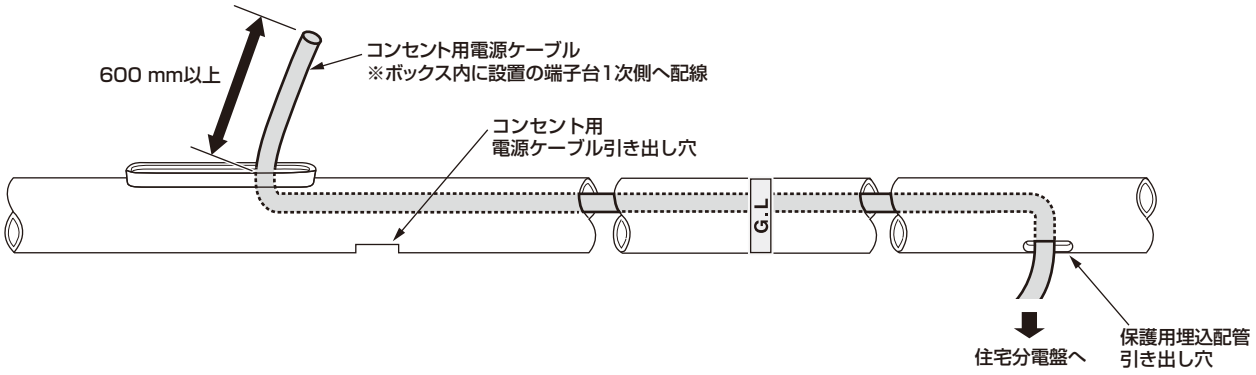


⚠ 注意

配線は必ず住宅分電盤の分岐回路より配線する
漏電発生時、宅内が全停電になるおそれがあります
※ボックスから分岐する場合は電気事業者にご確認ください

コンセント用電源ケーブルは予長を十分にとる
器具の配線ができないおそれがあります

●建柱時に電源コンセントを取り付けない場合



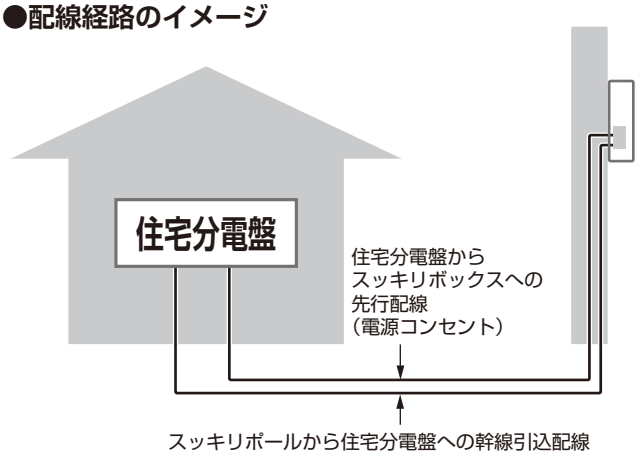
ＥＶ／ＰＨＥＶ充電に使用する場合

ケーブルサイズは、将来の 200 V　30 A 充電対応を考慮して、φ 2.6 mmまたは5.5 mm^2の使用をおすすめします。

お願い

・建柱時に電源コンセントを取り付けない場合でも必ず配線を通線しておいてください

●配線経路のイメージ



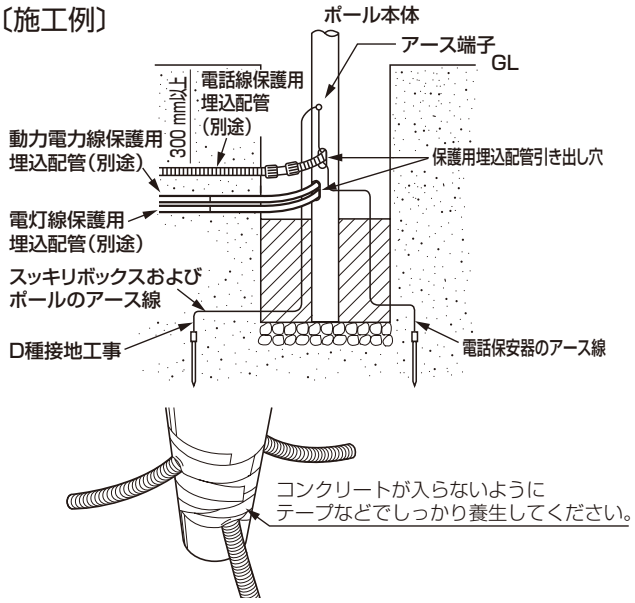
⚠ 注意

配線は必ず住宅分電盤の分岐回路より配線する
漏電発生時、宅内が全停電になるおそれがあります
※ボックスから分岐する場合は電気事業者にご確認ください

9 仮建柱

1. ポール表面に傷や素地が見える剥離のないことを確認してください。異常のある場合は取扱説明書の補修方法に従って確実に補修してください。
2. 動物などの排泄物が付着することが考えられる場合は、ポール寿命の低下をおさえるため地際部に補修塗料・防食テープなどで予防処置してください。
3. ポール内部に根巻き用コンクリートが入らないように保護用埋込配管引き出し穴を全箇所、テープなどでしっかり養生してください。
4. GL ラベルの位置まで埋められるように基礎穴を掘ってください。基礎コンクリートの大きさは土質により異なりますので、建柱場所の電気設備の技術基準の解釈に定める土質係数を建築業者様と調整の上決定してください。なお、ポール先端の許容荷重および根巻きサイズは、「スッキリポールへの引込線の選定と実用径間」表（3～4ページ）を参考にしてください。
5. ポールを建て、ボックス通線用穴をボックス取り付け方向に向けてください。
6. 根巻きサイズを確保し、土で埋め戻してください。雨水が長期にわたり残存しないようにポール下面の水はけを良くしてください。

〔施工例〕



⚠ 警告

コンクリートをポール内に入れない
雨水や湿気がたまり、腐食の原因となります。

⚠ 注意

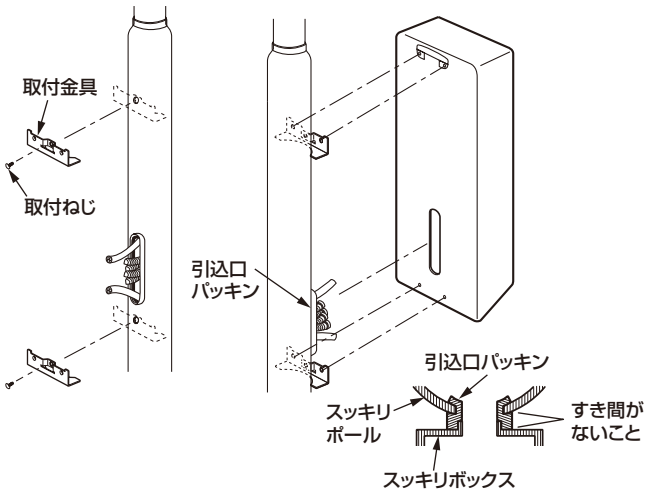
仮建柱からコンクリート根巻きが乾くまでポールを充分固定し、作業を行う
ポール転倒の原因となります。

ポール下面の水はけを良くする
水はけを良くしないと、ポール内に雨水がたまり、腐食の原因となります。

10 スッキリボックスのポールへの取り付け

1. 取付金具２個をポールに堅固に取付ねじで取り付けてください。
2. 取付金具の増し締めを確認後、上側の取付金具にスッキリボックスを引っ掛けて仮固定してください。
3. スッキリボックスの背面凸部を引込口パッキンに合わせながら、スッキリボックスを下側の取付金具に取り付けてください。
4. スッキリボックスと引込口パッキンの間にすき間ができないように、スッキリボックスの内側より上側と下側の取付金具に堅固にねじで取り付けてください。

※スッキリボックス7313型は、扉を外して施工してください。
外した扉は、傷が付かないように仮置きしてください。



お願い

- 引込口パッキンの切欠穴嵌合部がポールの長穴内面に沿っていることを確認してください。
- 固定後、スッキリボックスの向きを変えるなど過剰な負荷をかけないでください。
  金具が変形するおそれがあります。
- 固定後、スッキリボックスと引込口パッキンの間にすき間がないことを確認してください。

⚠ 注意

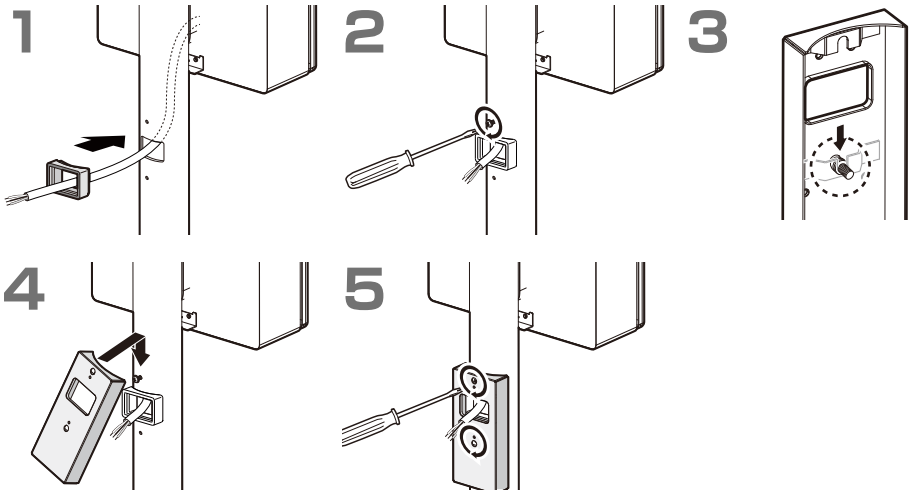
引込口パッキンとポールおよびスッキリボックスの間にすき間がないことを確認する
水が浸入し、地絡・感電の原因となります。

11 コンセント取付金具およびアウトカバーのポールへの取り付け

●建柱時に電源コンセントを取り付ける場合

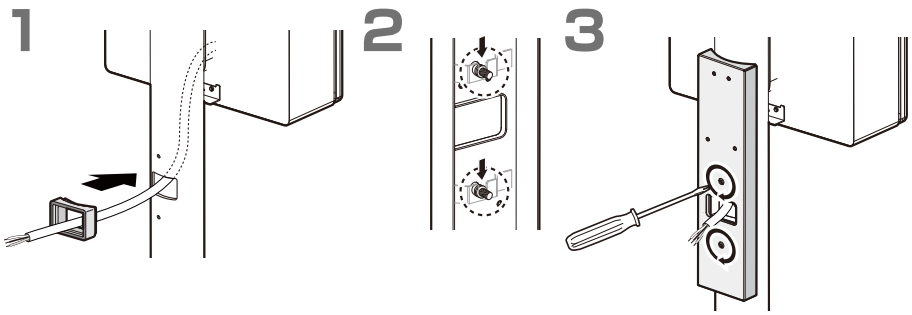
コンセント取付金具（１個用）の取り付け方

1. ポールにパッキンを取り付ける。
2. ポールに上側の固定ねじを仮固定する。
3. コンセント取付金具の裏側に下側の固定ねじを溝にはめる。
4. コンセント取付金具を固定ねじに引っ掛ける。
   このとき下側のねじを落とさないようにご注意ください。
5. 固定ねじを締め付ける。



コンセント取付金具（併設用）の取り付け方

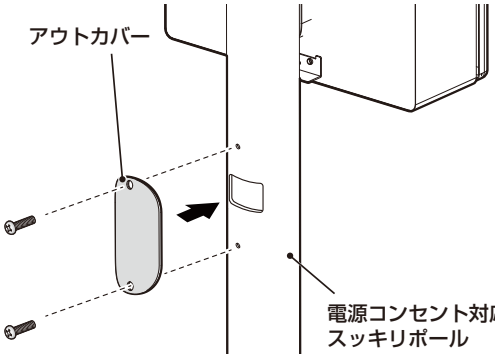
1. ポールにパッキンを取り付ける。
2. コンセント取付金具の裏側に両側の固定ねじを溝にはめる。
3. 固定ねじを締め付ける。



※ねじを固定する際は、片側のねじを仮止めした状態でもう片方のねじを締め付けてください

●建柱時に電源コンセントを取り付けない場合

アウトカバーの取り付け



端子台の取り付けおよび１次側の配線

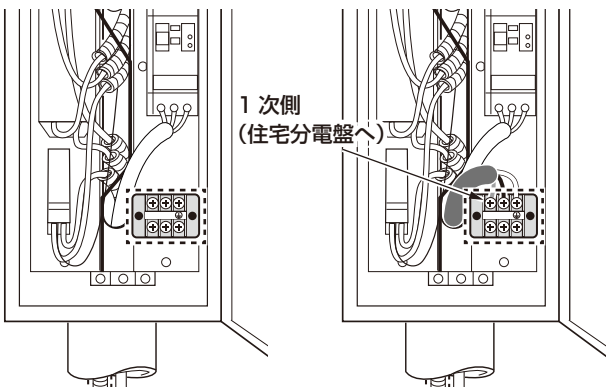
※先行配線のため、ボックス内に取り付ける端子台を付属しています
※端子台の取付ねじは付属していませんので別途ご準備ください（φ４．１木ねじ〔市販〕）

⚠注意

コンセントのアースは、必ず住宅分電盤側のアース接続部より配線する
アースが確実に取れないおそれがあります。
端子台名板のアース表示にしたがって、必ずそこにアース線を配線する
誤配線の原因となります。

お願い

・端子台の取付位置は、できる限りボックス底面から離してください。



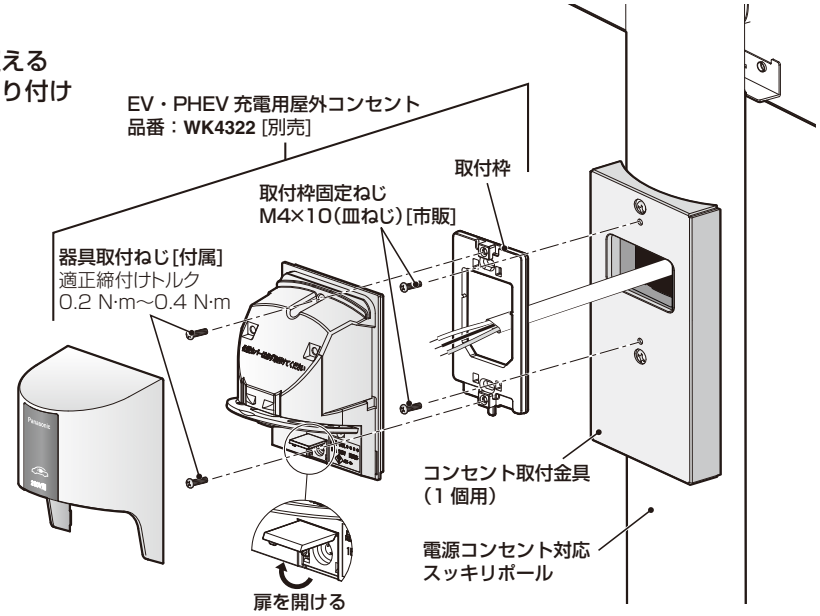
1. 端子台を取り付ける。
2. 端子台１次側を配線する。

コンセント取付金具（１個用）への器具の取り付け方

●取付例

ご注意

幅 87 mmを超える
コンセントは取り付け
できません

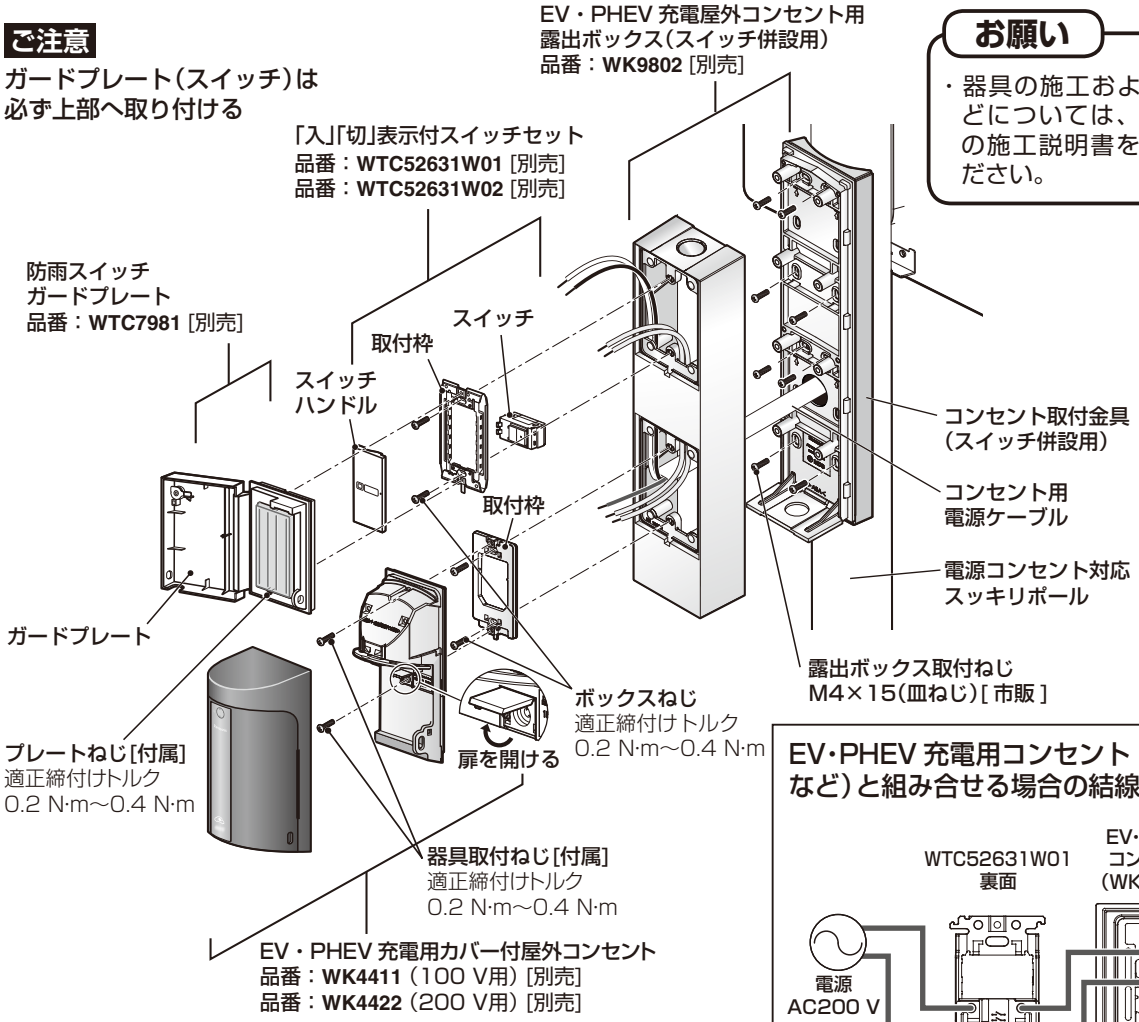


コンセント取付金具（スイッチ併設用）への器具の取り付け方

●取付例

ご注意

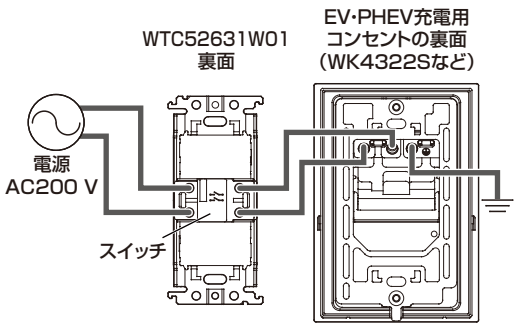
ガードプレート(スイッチ)は
必ず上部へ取り付ける



お願い

・器具の施工および取り扱いなどについては、器具側に付属の施工説明書を必ずご確認ください。

EV･PHEV 充電用コンセント（WK4322S など）と組み合せる場合の結線方法（施工例）

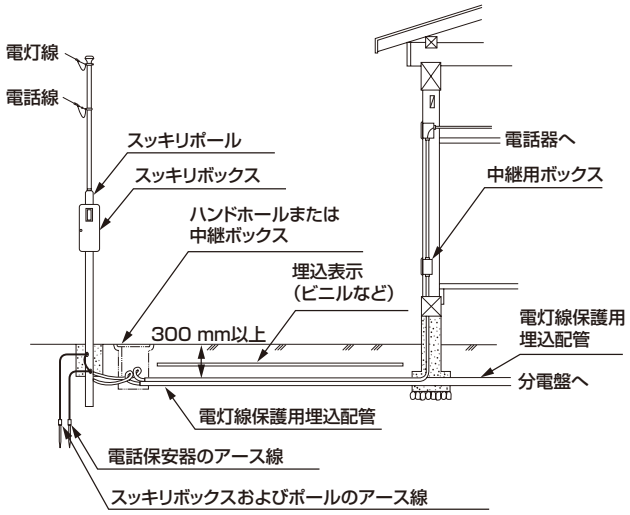


ご注意

電源ケーブルに ϕ 2.6 mmまたは 5.5 mm^2 を
使用する場合、「入」「切」表示付スイッチセットの
配線は付属の棒型圧着端子を使用してください

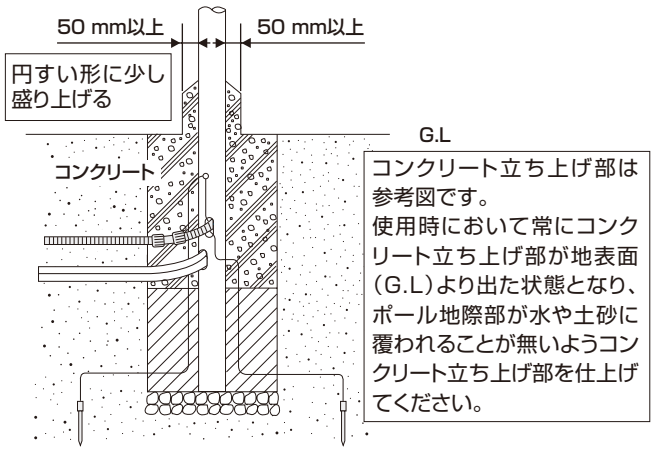
12 屋内への配管および配線（参考）

1. 地中電線路の配管は造園などで将来堀り起こすことがない場所を選んでください。
2. 配管距離が長い場合、また曲がりが2か所以上になる場合はハンドホールまたは中継ボックスを設けてください。
3. 電灯線保護用埋込配管には JIS C3653 に規定する管またはそれらと同等以上の管をご使用ください。
   なお、当社製 PF 管は JIS C3653 の附属書 1 に規定する波付硬質合成樹脂管と同等以上の性能を有しますのでご使用になれます。
4. ハンドホール内で電線の接続は行わないでください。
5. ハンドホール内の電力ケーブルと電話線とはしゃへい板により隔離してください。
6. 配管内に水が浸入しないようにパテなどでふさいでください。
7. 配管の上にはビニールシートなどで埋込表示をしておくと安全です。
8. 情報用配管は、光ファイバー通信サービス会社に施工条件を確認の上、施工を行ってください。また、「情報線保護用配管の曲げ半径について」も参照してください。



13 コンクリートでの固定

1. 検針がしやすい方向にスッキリボックスが向いているか確認してください。
2. 引込電線の荷重によりポールがたわみますので、「スッキリポールへの引込線の選定と実用径間」表（3～4ページ）のポールのたわみ量の目安を参照して、右図のようにポールをあらかじめ引込線と逆方向に傾けて、仮固定してください。
3. ポールの周囲にすき間ができないようにつき固めながらコンクリートを流し込んでください。
4. コンクリート上部を右図のように仕上げてください。
   コンクリートが完全に乾くまで、以降の作業はできません。



コンクリート立ち上げ部は参考図です。
使用時において常にコンクリート立ち上げ部が地表面（G.L）より出た状態となり、ポール地際部が水や土砂に覆われることが無いようコンクリート立ち上げ部を仕上げてください。

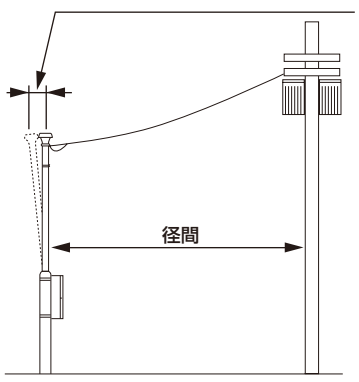
⚠ 警告

コンクリートを流し込んだ後、スッキリボックスを持って方向を変えない
取付金具が変形したり、スッキリボックスと引込口パッキンの間にすき間が生じたりし、雨水浸入による地絡・感電の原因となります。

仮建柱からコンクリート根巻きが乾くまでポールを充分固定し、作業を行う
ポール転倒の原因となります。

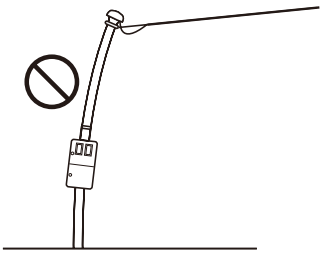
商品を建て、コンクリートで固定する際は、「根巻きサイズ」を確認し、更に植栽などの土がポールに被らないようにGLよりコンクリートを盛り上げ、堅固に固定する
腐食が促進されポール倒壊の原因となります。

点線に示すようにポールを引込線と逆方向に傾けて建柱してください。



14 架空線の引き込み

実用径間内で引き込みください。
実用径間は、「スッキリポールへの引込線の選定と実用径間」表（3～4ページ）でご確認ください。



15 点検項目の確認

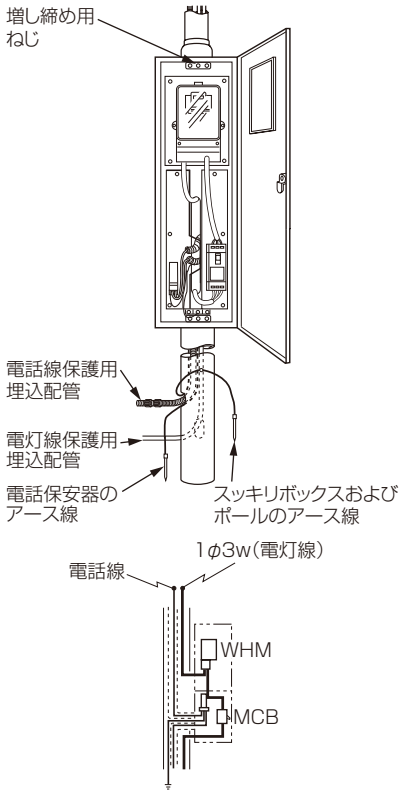
1. 施工完了後、取扱説明書の裏面にある点検シートに建柱日をご記入ください。
2. 点検シートに基づき点検を行い、建柱時の欄にチェックをいれてください。

16 完成略図例

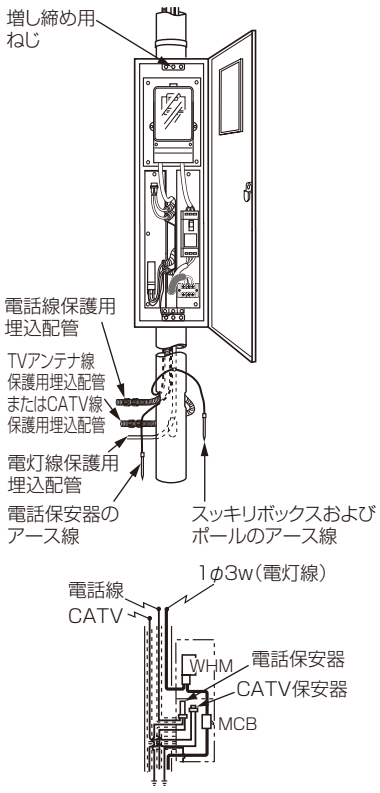
お願い

・保安器などの弱電機器の設置は、木板に貼り付けてあるラベルにより指定されている場所に取り付ける
守らないと、取り付けられない機器が発生します。
・強電線と弱電線が直接接触しないように付属の樹脂製セパレータを取り付ける
ブレーカは図の示す位置に取り付けてください。
・スッキリボックス内の光ファイバーケーブル露出部は必ず保護する
守らないと、断線の原因になります。

〔電灯・電話用〕
〔電灯・電話・TVアンテナ用〕

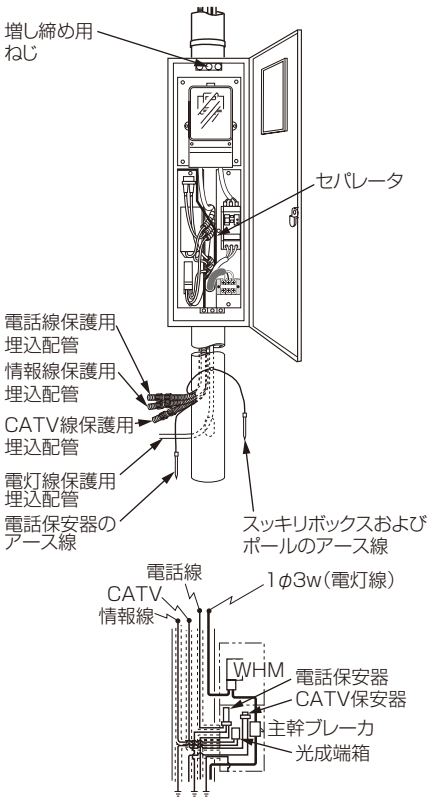


〔電灯・電話・情報（CATV）用〕
〔電灯・電話・情報（CATV）・コンセント〕



〔電灯・電話・情報（ＣＡＴＶ）・コンセント〕でアウトカバーを使用する場合のみ端子台の取り付けがあります。

〔電灯・電話・情報・CATV用〕
〔電灯・電話・情報・CATV・コンセント〕



〔電灯・電話・情報・ＣＡＴＶ・コンセント〕でアウトカバーを使用する場合のみ端子台の取り付けがあります。

●情報用として光ファイバーケーブルを引き込みの際には、光ファイバー通信サービス会社により仕様が異なりますのでご確認ください。
●取付金具の取付ねじが緩んだ場合、上側・下側ともに増し締め用ねじを外し、取付ねじを締め付けてください。

構成部材一覧

主幹容量	用途	ポール全長(m)	品番	上部柱	下部柱	スッキリボックス	アンテナマスト	部材名 / 付属品	スッキリキャップ		引留フック		スッキリフック電話用		ジョイントカバー		取付金具		アース端子ねじ	ポール接続用ねじ	アンテナマスト支持金具		引込口パッキン(長穴用)		配管セット	
									φ114	φ140	φ114	φ140	φ114	φ140	φ114	φ140	φ114	φ140			φ114	φ140	φ114	φ140	16用	22用
14mm²・22mm²	電灯電話	7.0	XDNB0270S	DDR3140S	DDH7441S	DDB7313S	——	DDFB0270KS	●1		●1		●1		●1		●2		●1	●1	●1		●1		●1	
	電灯電話情報(CATV)	7.4	XDNC0274S	DDR3241S	DDH7541S	DDB7313S	——	DDFC0274KS	●1		●1		●2		●1		●2		●1	●1	●1		●1		●1	●1
	電灯電話情報CATV	7.8	XDND2778S	DDR3342S	DDH7641S	DDB7313S	——	DDFD0278KS	●1		●1		●3		●1		●2		●1	●1	●1		●1		●1	●2
	電灯電話TV	7.0	XDNH0270S	DDR3141S	DDH7441S	DDB7313S	DDF320S	DDFH0270KS	●1		●1		●1		●1		●2		●1	●1	●		●1		●1	●1
38mm²	電灯電話	7.0	XDNB0370S	DDR4140S	DDH8441S	DDB7313S	——	DDFB0370KS		●1		●1		●1		●1		●2	●1	●1		●1		●1	●1	
	電灯電話情報(CATV)	7.4	XDNC0374S	DDR4241S	DDH8541S	DDB7313S	——	DDFC0374KS		●1		●1		●2		●1		●2	●1	●1		●1		●1	●1	●1
	電灯電話情報CATV	7.8	XDND0378S	DDR4342S	DDH8641S	DDB7313S	——	DDFD0378KS		●1		●1		●3		●1		●2	●1	●1		●1		●1	●1	●2
	電灯電話TV	7.0	XDNH0370S	DDR4141S	DDH8441S	DDB7313S	DDF320S	DDFH0370KS		●1		●1		●1		●1		●2	●1	●1		●1		●1	●1	●1

●電源コンセントポール構成部材一覧

主幹容量	用途	ポール全長(m)	品番	上部柱	下部柱	スッキリボックス	部材名 / 付属品	スッキリキャップ			引留フック			スッキリフック電話用			ジョイントカバー			取付金具		引込口パッキン(長穴用)		ポール接続用ねじ	アース端子ねじ	配管セット弱電用※1	
								φ100	φ114	φ140	φ100	φ114	φ140	φ100	φ114	φ140	φ100	φ114	φ140	φ114	φ140	φ114	φ140	M8×12	M5×6	16用	22用
22mm²	電灯電話情報(CATV)コンセント	7.4	XDNC6274S スマート	DDR3241S	DDH7545S	DDB7313S	DDFC0274KS		●			●			●2			●		●2		●		●	●	●	●
		7.8	XDND6278S スマート	DDR3342S	DDH7645S	DDB7313S	DDFD0278KS		●			●			●3			●		●2		●		●	●	●	●2
38mm²		7.4	XDNC6374S スマート	DDR4241S	DDH8545S	DDB7313S	DDFC0374KS			●			●			●2			●		●2		●	●	●	●	●
		7.8	XDND6378S スマート	DDR4342S	DDH8645S	DDB7313S	DDFD0378KS			●			●			●3			●		●2		●	●	●	●	●2

※1　配管セットはアウトキャップ弱電用とスッキリポール内配管用のCD管などを組み合わせたものです。

パナソニック株式会社
パナソニックエコソリューションズSPT株式会社
〒571-8686 大阪府門真市大字門真1048番地
© Panasonic Corporation 2012
DPS0009-S12
DC0909-30412